

会長の挨拶 24 職業の本質—その 11—

金銭獲得を直接目的とする職業においては、取引の相手方が何時も疑心暗鬼の状態にいななければならないのは商人の心に何時も駆け引きが存在するからである。儲からぬ、儲からぬと言いながら蔵が建つといわれる言葉の中に、この心理状態がいとも見事に浮き彫りにされている。ところが近來の医療業務・学校教育等々の問題をみると、この点は専門職業人にとっても言えることなのである。保険制度の操作や医療過誤にみられる種々の悪徳。医科大学の入学の賄賂や不正入学。更に一般的ヤミ入学、マス、プロ教育等を見てみると専門職業人が中世以来の聖職者意識に徹し切り、社会の良心の護持者であるかどうかは疑わしい。

それからまた、職業の組織化と企業組織の複雑化とはかなり高度の知識の所有者をその管理者として必要とする。その管理者は専門職業と同一又はこれに匹敵する内容を持っていながら、職業として位置付けられるということは、職業の名誉のためにはよいことである。その上、商売というものは、長期的には信用の上にこれを築くのが一番安全である。顧客と企業との間を信頼と言う無形の紐帯で結びつけられるということは両者にとってどんなに幸せなことか。

(小堀憲助著 『ロータリー思想の理論構造』より引用)